

幸せな10日間

—大分県総務部長の育児休暇体験記—



1 育児休暇は誰のため？

今回、私が取得したのは、出産補助休暇3日間と育児参加休暇5日間(いずれも有給休暇)です。

第二子(長男)の時にも取っていますので、一大決心をしてというより、取るのが当然と考えていました。

第一子(長女)の時は、里帰り出産していた所に顔だけ見に行ったような格好で、1~2日しか休まなかったのですが、第二子の時は、今回同様10日間の休みを取りました。

その時も里帰り出産だったので、私の出番はほとんどありませんでしたが、生まれたばかりの子どもと過ごす時間は何とも贅沢で、育児休暇というのは、妻や子どものためというより、自分自身のために、是非とも取るべきだと思いました。



2 休暇をとる際のポイント

今回、職場では、休暇を取ることに反対する人はいませんでしたが、不在の間の仕事上の判断や、県議会等外部との関係について、心配する向きはあったように思います。

上司である知事・副知事には、第三子が生まれると分かった時から、休みを取りたい旨をそれとなく伝えており、「それは結構なことだ」という言葉をもらっていたので、私自身はあまり心配していませんでした。

そう言っても、部長職の立場上、自分が10日間休むことによって県庁内外の仕事に影響が出ないように万事怠りなく準備をしておく必要がありました。

そのため、会議等について可能なものは日程を移動し、不可能なものは代理出席等の了解を取り付けました。職員の業務に支障が出ないように、必要な打合せはできるだけ前倒して片付けました。

また、上司や部下と以下の3点について申し合わせをし、了解を得ました。

- 1 休暇中も、職場とはメール・携帯電話で連絡を取り、業務に支障は生じさせない。
- 2 緊急の場合は、登庁する。特に、危機管理に関する事態には登庁して対応する。
- 3 期間中に開催される会議は、審議監が代理出席。緊急の決裁も、審議監が代決する。

このように、上司や同僚に「休んでも大丈夫なように準備をしているのだ」という安心を与えることも、休業所得に向けた事前の準備として重要なポイントだと思います。

ちょっと悩んだのが、県議会への対応です。さすがに私一人の都合で変えることもできません。出産予定日の5日前に常任委員会が予定されており、万が一、出産が早まった場合のことを心配していました。そんな折、たまたま県議会議長と雑談する機会があり、ポロッと「重なったら困るなあと思ってるんです。」と話をしたところ、議長は即座に、「そんなもの議論の余地はないじゃないか。子どもの誕生という人生の一大事と議会への出席を比べること自体がおかしいよ。」と言われ、その言葉に大変勇気づけられました。

結果的に出産が早まり、まさに常任委員会の日に生まれることになったのですが、迷わず「休む」と即決できたのも、議長のこの一言のおかげです。この一言は、4人のお子さんを持つ父親ならではの言葉だと思います。



3 休暇中この上なく幸せな瞬間

休暇中、職場とのメールのやり取りを除いては、ひたすら家事・育児に専念していました。

朝起きると、まず、朝食の準備をして、長女・長男に食べさせ、それぞれ小学校や保育園に送り出します。

その後、洗濯や朝食の片付けをして、昼食の準備。昼食が終わったら、その片付けと夕食の準備です。夕方には長男を保育園に迎えに行つて、洗濯物を取り込んでたたみ、家族に夕食を食べさせて、子ども達をお風呂に入れて、絵本を読み聞かせしながら寝かしつけて…とまさにフル回転です。

子ども達が寝た後に、ゆつくりお風呂に入ってビールを一杯。これを楽しみにひたすら頑張るという感じでした(笑)。今回は、妻が赤ちゃんとおしゃべりしなくて一緒にいられるよう、私が家事を一手に引き受けるというスタイルだったので、妻が食事や入浴している間、赤ちゃんを抱っこしている時間が、この上なく幸せな瞬間でした。

育児・家事をすることで、生活の充実度が増したの事実です。趣味や勉強の時間は以前に比べて大幅に少なくなっていますが、今の時期は、これでいいと思っています。

先輩からは、「子どもが『お父さん、お父さん』と言ってくれるのは、たかだか10年。そのうち、頼んでも一緒にいてくれなくなるよ。」と。後悔しないように、今は子どもとの時間を大切にしようと思います。

家事・育児を通じて得たことは色々ありますが、ひとつには、人を動かすときには「共感」が必要だということです。子どもは、こちらの思い通りには動いてくれません。「…しなさい。」と言っても、言うことを聞かない時はきかない。そんな時、子どもの気持ちに寄り添うというか、子どもの気持ちに親が共感していることを伝えると、子どもも動いてくれることが多いように感じます。

仕事でも、相手の気持ちに共感すること、また、こちらの思いに共感してもらうことは、とても大切と思っています。

もうひとつは、「段取り力」の大切さです。炊事・洗濯を時間内にこなしていくのは本当に大変で、段取りを間違えると、食事の時間になっても用意ができていない、保育園に迎えに行く時間に間に合わない、といった事態になってしまいます。

最初は、とにかくやれることを片っ端からやっていくという感じだったのですが、そのうち、「洗濯機を回している間に食器を洗って…」と最も効率よく時間を使う作業手順が自分の中で出来上がってきました。

家事というのは、とてもクリエイティブというか、工夫すればするほどカイゼンされるという面白さがあると思います。段取りよく仕事ができると、「オレって家事の才能あるかも」と気分が良くなり、夜の一杯もまた格別なものになります(笑)。

とにかく、自分なりの楽しみを見つけるのが早道ではないでしょうか。

4 育児休暇を考えている皆さんへ

私の周りでも、育児休暇は取らないまでも、育児を頑張っているパパはたくさんいます。若い世代には、特に男性の育児が珍しいという感覚はないのではないのでしょうか。これから確実に、世の中の雰囲気は変わっていくと思います。

生まれたばかりの子どもと過ごす時間は、本当に幸せです。これを母親だけに独占させる手はありません。奥さんや子どものために取らなければという義務感ではなく、人生の中で滅多に味わえない「幸せな時間」のため、自分のために育児休暇を取ってみてください。

そのための環境整備は必要ですが、以前に比べれば、社会の認容度は上がっていると思います。

周囲の理解と安心を取り付けるための準備さえ整えば、後はほんの少しの「勇気」だけです。

日頃頑張っている皆さんのことを、周囲もサポートしてくれるはずですよ。メールと携帯電話を活用すれば、休むことによる周囲への影響も相当程度減らせます。

皆さんの後に続く後輩のためにも、是非一歩踏み出してみてください。

筆者 佐藤 健さん (大分県総務部長)



★[県庁ホームページに育児休暇体験記「幸せな10日間」を掲載しています。](#)

トップページ → [大分県子育て支援情報「子育てのタネ」](#) → [パパの子育てを応援するページ](#) → [育児休業体験記](#)